

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 2月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200593		
法人名	森信建設 株式会社		
事業所名	グループホームなでしこ富士見町		
所在地	広島市中区富士見町15-23 (電話) 082-244-3599		
自己評価作成日	令和3年1月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200593-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年2月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

昨年「音声入力による介護記録」の導入を行い全職員で有効に活用しています。現場で起こった事や利用者が発した言葉などを細かく迅速に入力し、その場にはいない職員も情報を共有する事ができ、ケアの向上に役立っています。調理は専門調理員により作られており、誕生日食や季節に応じた献立を考え、利用者に季節感を感じ楽しんで頂ける様に工夫しています。また米は契約農家から購入している玄米を事業所内で精米し提供しています。今年は二件の看取りがありました。事業所では本人様がお元気な頃にどの様な最期を望んでおられたか、家族や職員で話し合い、ケアを考え実施しています。家族・職員・他職種とで連携し、自宅で過ごしておられる様な温かみのあるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

散歩の道中でふと発した将棋がしたいという言葉聞き逃さず、職員が将棋を習って利用者の相手をするなど一人ひとりの思いを支援する取り組みが日々行われている。身体拘束防止の取り組みとして職員が一日車椅子で行動して利用者の気持ちを体感しケアの質の向上に繋げている。コロナ禍では家族に写真やメールを頻繁に送り、関係が継続できる支援も行われている。食事の片づけ係など役割を楽しめるよう個別に配慮し、自立歩行、自立排泄支援のリハビリにも取り組んでいる。ヒヤリハットや事故に対して内容状況問題点を話し合い、対策までの詳細な経過を常に家族に報告する誠実な対応で信頼関係が構築されている。どんな施設に親を入れたくないかの話し合い研修、院内感染研修など充実した研修がケアに活かされている。終末期医療・看取り介護に関しては家族の意向、思いなど十分に話し合い、方針の共有がなされている。

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「ゆったり、のんびり、ほがらかに」のもと、行動指針を常に意識し、業務優先にならず個々の思いや状況を第一とし、食事の時間など柔軟な個別対応を行っています。	日々の朝礼では、法人理念に基づいて職員が今日何をするか報告し、前日の反省や提案が行われている。反省や提案は法人理念である生きがいを感じ、和やかに暮らすための切れ目のないサービスへの実践に繋がっている。事業主も毎朝、利用者一人ひとりに挨拶して回り、日々の変化や思いを聞き、管理者、職員と共に理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年はコロナ対応で地域との交流が出来ませんでした。天気の良い日はマスクを着用し、出来るだけ散歩に行き、近隣住民と挨拶を交わしたりしています。時々採れた野菜の差し入れがあり、その野菜で作った食事の写真を撮りお礼をしています。	利用者は近隣在住者が多く、日ごろから地域交流が行われている。町内会に加入し、夏祭りや公民館祭りなどにも参加して地域の一員として交流している。地域の傾聴ボランティアによる音楽やビデオ鑑賞、警察官による腹話術など地域支援と繋がりがながら交流が行われている。民生委員から入居者の紹介もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1階そとだん館で、毎月「いきいきサロン」を開催していましたが、コロナ対応で中止となりました。状況を見ながら開催し、住み慣れた場所でこれからもいきいきと過ごす事が出来るように、皆さんで集まって体を動かしたり、楽しく健康づくりをして行きたいと思えます。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ対応で、令和2年5月より開催を中止としており、家族様、民生委員、地域包括支援センター、町内会長に次第・資料を送付し、要望・意見・助言を頂いています。ヒヤリハット報告や事故報告をし、それに対するカンファレンスの内容も報告しています。	いきいき体操・ふれあいサロン・認知症カフェなどの情報や助言を得て、利用者のサービス支援に活かしている。議事録には報告や取組み、ヒヤリハットや転倒についての原因究明・検討・改善など詳細に正直に記載してあり、ケアの向上に活かされている。議事録は家族にも送付され信頼関係構築の一つになっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター職員から、地域で開催される介護予防体操などの情報共有を図っています。また地域包括支援センターが主催している「認知症カフェ」に参加し、事業所の実績やサービスの取組みを伝えたり、医療側からの話を聞いて、認知症についての理解を深めています。	介護保険に関して疑問な点があると事業主が市の介護保険課に相談に行き、利用者のケアサービスに繋げている。地域包括支援センターとも協力関係を築きながら認知症についても理解の普及に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいます。毎月のフロアーミーティングやリスク委員会で禁止の対象となる具体的な行為等について検討しています。事業所入口ドアは安全優先で施錠していますが、職員と共に自由に出入りできるようになっています。	何が身体拘束になるか月一回のフロアー会議で確認し、スピーチロックなど職員間で注意しながら身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。実際に、職員が一日車椅子に座り行動して、利用者の気持ちを体感してケアの向上に繋げている。外部研修にも積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部のオンラインでの研修に参加し、その研修で学んだことをフロアーミーティングの場で報告し、全職員が共有できるようにしています。また入浴介助や更衣介助の際、不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様の中にも成年後見人制度を利用されている方がおられます。家族様からの相談時にはこのような制度がある事を説明しています。また電話で問い合わせがあった場合も同様に説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧に説明し、理解・納得いただけるよう心掛けています。また料金改定が生じた場合は文章にてお知らせし、了解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個々の家族の要望や意見は電話や面会時の他、担当者会議の場でも活発に話し合われています。排便コントロールについて聞かれた例があり、薬だけに頼らず、ヨーグルトをメニューに加えたり、果物をキュウイにしたり工夫しています。	コロナ禍で面会が困難になり、利用者に出たいという家族の要望に対し、マイクロSDカードに個人の日常生活をアルバムに作成し送って安心してもらっている。洗濯の粉が時々衣服についているとの指摘で粉石鹼から液体石鹼に換えた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者、職員はほぼ毎日朝の申し送りで顔を合わせます。その際、意見や提案を話しています。職員からコード式の掃除機は利用者の歩行時、引っかかって転倒する危険性が高いという意見があり、各階ともコードレス掃除機に変えて頂いた例があります。	マスクの個人経費が負担であるとの職員の声に応じて、マスク手当として全員に月1500円が支払われるようになった。ビニール手袋など備品購入や入浴剤など利用者のケアの向上に資する職員の思いや意見にも管理者、経営者は真摯に対応し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフト作成に当たっては、代表者が勤務状況に無理がないかを確認し調整しています。また職員の処遇改善に向けては、社労士の指導助言などを受けて、常に前向きに実施する事を明示し心がけています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に外部の研修を案内し、参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	音声入力による介護記録の導入で、温品・五日市の介護記録も見れる様になっています。他グループホームのケア記録を読む事で記録の書き方が上手くなり、利用者へのサービスの質を向上させていると思います。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前面談では、ご本人の生活の様子やADLを確認し、要望などの聞き出しに時間をかけています。入所後の数日は帰宅願望など不穏な状態が見られる事から、職員が重点的な見守りを行い、ご本人の要望や相談事を聴く機会を積極的にとり、安心感を醸成しています。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	事前面談で家族様にお話しを伺うと「慣れるでしょうか」と心配されます。サービス開始後は家族様との連絡を密にし、ご本人様の様子をお話しし安心して頂ける様心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談で、ご本人、ご家族、ケアマネジャーに同席して頂き、要望などを聞き出しています。サービス開始時はフロアミーティングで、今の支援が適切かどうか、他のサービス利用をどの様にするかを重点的に話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は入所者様の「新しい家族」と言う立場を認識し、その方のそれまでの生活の仕方を尊重し、何事も共に寄り添いながら行い、日々を過ごすよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ感染防止対策として当分の間面会を自粛して頂いています。家族が面会に来ないと言われる利用者様には、電話で話して頂き、可能であれば施設の中と外で会話して頂く様にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年はコロナ感染防止の為、ご家族や知り合いの方の面会を自粛して頂きました。希望される家族様にはメールアドレスを聞き、普段の様子を写真に撮って送っています。また今後はパソコンを使ったりリモートで会話が出来る様計画しています。	近隣の友人や遠方からの知人などが訪問することも多く、その関係性を継続できるよう支援している。馴染みの美容院や法事、墓参り、外泊などの支援も常に行われている。コロナ禍では家族に写真を頻繁に送り、スマホやパソコン機材を駆使して、関係が継続できる支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入所時から性別、趣味や生活スタイルなどお話しが合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。又ユニットを越えてレクを行い、合同での相互関係を構築する様にしています。人間関係に考慮して部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、年賀状や暑中見舞いを出し、関係性を大切にしています。お電話でお話しする事もあり、ご家族様のその後の様子を伺ったり、心配ごとがあれば何でも相談できる信頼関係を構築しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から把握した利用者の願いや思いは、その場で音声入力による介護記録に記録し、職員間で共有しています。その思いをケアプランに入れご家族様に提示し、本人様の意向を大切にしよう支援しています。	入所時に生活歴を聞き、職員間で共有している。幼少期からの詳細な生活歴を提供してくれる家族もおり、思いや希望に添えるケアプランに繋がっている。日常的には思い出話や散歩途中のちょっとした会話から思いをくみ取り、介護記録にすぐ入力し共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所者ご本人の、現在・過去の思いや暮らし方等をお聞きし、これまでの生活環境を重要視し、なるべく変わらない方向で支援しています。ご家族様から情報を得て、アセスメントを行い、カンファレンスで検討を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面談では、これまでの住まいを訪問し、日常のADLを確認するとともに、これまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。各フロアとも食事の後片付けは利用者様が積極的に行っておられ、有する力の維持に努めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーは担当職員からの情報をもとにアセスメントを行い、担当者会議にて本人・家族・職員と話し合い介護計画を作成しています。モニタリングはシーレポに入力されたものを参考にし、状況変化に応じた個別的なプランを作成しています。	利用者の担当職員が常によく観察し、些細なことでもケアマネジャーに伝えて、介護計画に活かすように取り組んでいる。担当職員・利用者・家族・管理者・ケアマネジャーなどで意見やアイデアを出し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を音声入力に変更したことで、本人様が話した内容や思いをより忠実に知る事が出来る様になりました。またその日のバイタルや医師からの注意事項等を確認する事が出来、職員のみでなくケアマネジャー・看護師にも情報が共有出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望を担当者会議で把握し、どの様なサービスが提供出来るかミーティングで話し合っています。その時のニーズに応じて多様な支援の方法をケアマネジャーが提供し対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の行事に参加したり、散歩等で地域の方と顔見知りになり声を掛けて頂いています。グループホームにも野菜を届けて下さったりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な内科・歯科の訪問診療に加え、昨年からは精神科の往診が始まりました。かかりつけ医・訪問看護は定期的な往診と訪問で24時間オンコール体制を取っており、通院を要する場合や入退院時の支援にも対応しています。他科受診の際は、その内容について音声入力された記録で迅速な情報提供が行われています。	利用者のかかりつけ医への受診の希望には常に応じており、家族が同行できない場合は職員が同行支援することもある。コロナ禍で外出が少なくなっている状況の中、ストレスで不安になる利用者には精神科の医師の訪問診療で一人30分程度傾聴や診療を受けられる支援も行われている。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護は週1回の定期訪問ですが、それ以外にも常に連絡が取れる体制になっており、休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常ではかかりつけ医との連絡を担い、十分に相談しながら日常の健康医療を支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、常に状態を把握する為、担当医師や患者支援センター職員との話し合いの場を設け、できるだけ早期に退院・再入院できるように努めています。また医療行為が必要になった場合は、他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応の指針は、入居時とその都度伝えて、合意のうえ本人家族の意向に沿った対応をしています。看取り時は医療関係者と連携を取りながら、寄り添うケアをチームで行い支援しています。看取りの研修と職員間での振り返りを行い、終末期における支援体制を強化しています。	看取り期に入ることを医師が判断した場合、管理者に指示や説明、ケアのプランなどが伝えられ、管理者は職員に二度にわたり医師からの伝達研修を行い、よりよい終末期を迎えられるよう医療、ケア双方で連携支援している。家族の意向、思い、点滴の有無など十分に話し合い、終末期の方針を共有できるよう配慮し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時には、運営マニュアルに沿って、連絡網で即時情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度当日の行動など関係者で振り返り、改善策についての意見交換と研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練を行い、新人職員も含め、避難経路、誘導方法の確認、防火扉や消火器の取り扱いなどを重点的に訓練しています。また災害に備えての備蓄購入をして頂き、会社全体での協力体制を築いています。	非常災害マニュアルを策定し、利用者も参加して避難訓練を行っている。地域との連携協力体制も整備されている。新入社員にも入社時には、夜間時の避難訓練などの研修を行うようにしている。食料、水など備蓄も完備されている。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のフロアーミーティングで声掛けについての対応を話し合っています。利用者が誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを意識し、職員同士が注意し合える信頼関係を作るようにしています。また口腔ケア時の目の高さや利用者の自己決定などに配慮しながらケアに取り組んでいます。	呼称に気をつけ、何々さんと呼ぶなど人格を尊重した対応をしている。車いすの利用者には目線を同じにして声掛けを行うよう対応している。より良いケアを目指して接遇の研修にも力を入れ、利用者を尊重する言葉かけや尊厳を損なわない対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の要望や思いなど、素直に耳を傾け、自己決定できるよう対応しています。日々の密接な関係が続く中、つい見逃してしまう兆候がある事を常に意識し、業務優先を避け、寄り添う事に時間をかけるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入所者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望を聞き、最適な過ごし方が出来るよう配慮しています。当日入浴を希望されない方は翌日にしたり、食欲が無い場合や一斉での食事を希望されない時は、後で召し上がって頂ける様工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝ご本人の好みの洋服に着替えて頂きます。化粧品もご本人、家族の希望があればつけて頂いています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来て頂き、本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望された際はご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	専門調理員が、利用者の方の要望を反映した献立を作成し食事を提供しています。時には皆で餃子包みをしたり、目の前で職員が釣って来た鯛の刺身作りが行われたりしています。食事時の姿勢や嚥下、食事形態にも配慮しています。	利用者の好きな焼きそば、手巻き寿司、餃子、ホットケーキなど一緒に作りながら楽しい食事の時間を過ごしてもらおう支援している。食事の片づけ係など利用者のできる範囲で役割が楽しめるよう配慮している。食器やスプーンなども個別対応で試行錯誤しながら利用者の自立支援に役立つよう配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分等の摂取量は個別に記録し、常に推移を見ながら工夫と配慮をしています。また入所者の様子(好み・硬さ・味等)特記があれば専門の調理員に相談し、今後の食事作りに役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを全員行っています。自分でされた後は、歯間ブラシ・デンタルフロスを使用し職員が口腔内を確認しています。歯科衛生士指導のもと、職員は必ず丸椅子に座り、ご利用者と視線を同じ高さにして口腔ケアを実施しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のタイミングを把握し、トイレ誘導をしています。職員は排泄ケア研修を受講し、一人一人にあったパットを検討し、アセスメントをしています。また下肢筋力低下防止の体操を取り入れ、自立に向けた支援に取り組んでいます。	リハビリパンツの利用者2名が排泄のパターンや状態の観察により布パンツに改善し、現在5名が布パンツである。排泄表も利用するが夜間は利用者の状況を勘案して排泄支援回数を増やすなど自立支援に取り組んでいる。オムツを一日装着して利用者の気持ちを体感する研修も行い支援の向上に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	処方された便秘薬だけに頼らず、寒天ゼリーやヨーグルトを増やし、自然排便が進む様にしています。その方にあつた適度な運動や散歩を毎日の日課にし取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回(夏場は3回)の入浴を午前中に行っています。入浴を拒否される利用者には強制せず時間を置いて入浴を促す様にしています。利用者ごとに湯舟のお湯を入れ替えて、入浴剤も好みのものを選んだりして頂いています。	入浴の湯は一人ずつ新しい湯に替えているが、新しい湯は嫌だと言われる利用者もいるので各々に配慮して入浴してもらっている。一人ずつ好きな香りの入浴剤を選択してもらい、入浴の時間を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	天気の良い日には寝具類の天日 干しや風通しなどを行い、清潔 な安眠環境作りを心がけていま す。日中のレクや軽い運動・日 向ぼっこをする事で、夜間しっ かり眠って頂けるようにしてい ます。処方による睡眠導入剤の 服用なども状況によって対応し ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	c-repo(介護記録アプリ)に個 人の服薬が入っており、通常薬 ・臨時薬・点眼薬をいつでもど こでも見る事が出来、薬の副作 用や注意点なども入力されてい ます。決められた時間・量・状 態等を確認し、服薬支援をして います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	ひとり一人の好みや得意分野 など、日々の関わりの中から引 き出し、取り組みが可能なもの は検討し導入しています。家族 会のアンケートも参考にしてい ます。固定的な役割分担などは 決めず、その日の気分・体調に 合わせて無理のないよう家事の 手伝い等をして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	散歩や近所のスーパーに買物 に出かけたり、ベランダで花の 植え替えをしたり、毎日の生活 が単調にならない様にしてい ます。また行きつけの美容院を 予約し、日程を決める事もご 家族様了解の上で本人様にし て頂いています。	飴やチョコなど買いに行きたい 要望があれば、日常的に近く のコンビニにまで散歩がてら 職員が同行支援している。時 にはフードコートでパフェを 食べたり、縮景園や、フラワー フェスティバル、カープのパレ ードに出かけ非日常を味わっ てもらう支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入所時に金銭管理の説明をご 家族を交えて行っています。金 銭管理規定に沿って金庫での預 り金と支出記録を行い、毎月 の請求時には報告をしていま す。自分でお金を持ちたい希 望の方には、ご家族同意の上 所持してもらい、お小遣い帳 をつけるなどして管理してい ています。		

自己評価	外部評価	項目(3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては、入所時にご家族と話し合い、必要であれば携帯電話を所持して頂いています。手紙の受発信は原則自由です。郵便局にはがきを買いに行ったり投函したりは職員と共に好きな時間に行って頂いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには職員と利用者が作った壁画が飾ってあり、暖かな雰囲気を出しています。照明も日中は昼光色で体内リズムを整えるようにし、夕方からは暖色系の灯に切り替え、睡眠をサポートするようにしています。またトイレの場所も分かり易く表示しており、清潔にも留意しています。	リビングは清潔で明るく、空調にも配慮し居心地の良い空間になっている。利用者が歩行しやすいようにテーブルや椅子の配置にも配慮している。窓際にはソファが置かれコミュニケーションの場として活用されている。リビング続きの広いベランダには花が植えられお茶をしながら季節感を味わえるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各階のリビングにはソファ2台を置き、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた思い思いの家具や椅子、家族写真、手編みのひざ掛け、好みの人形などを置いて頂いています。天井照明は（可能な方）好みの長さの紐を吊り下げ、利用者自身が消灯する事が出来、その人らしく暮らせるよう支援しています。	おしゃべりをする電動の犬、猫のぬいぐるみや椅子、愛読書、写真など利用者の大切な品々に囲まれ自宅にいる時と変わらぬ生活が営まれるよう配慮している。居室の温度や湿度もたびたび点検して快適に過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは下肢筋力低下防止に役立つよう、段差を残していません。		

V アウトカム項目(3階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「ゆったり、のんびり、ほがらかに」のもと、行動指針を常に意識し、業務優先にならず個々の思いや状況を第一とし、食事の時間など柔軟な個別対応を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年はコロナ対応で地域との交流が出来ませんでしたが、天気の良い日はマスクを着用し、出来るだけ散歩に行き、近隣住民と挨拶を交わしたりしています。時々採れた野菜の差し入れがあり、その野菜で作った食事の写真を撮りお礼をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1階そとだん館で、毎月「いきいきサロン」を開催していましたが、コロナ対応で中止となりました。状況を見ながら開催し、住み慣れた場所でこれからもいきいきと過ごす事が出来る様に、皆さんで集まって体を動かしたり、楽しく健康づくりをして行きたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ対応で、令和2年5月より開催を中止としており、家族様、民生委員、地域包括支援センター、町内会長に次第・資料を送付し、要望・意見・助言を頂いています。ヒヤリハット報告や事故報告をし、それに対するカンファレンスの内容も報告しています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センター職員から、地域で開催される介護予防体操などの情報共有を図っています。また地域包括支援センターが主催している「認知症カフェ」に参加し、事業所の実績やサービスの取組みを伝えたり、医療側からの話を聞いて、認知症についての理解を深めています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいます。毎月のフロアーミーティングやリスク委員会で禁止の対象となる具体的な行為等について検討しています。事業所入口ドアは安全優先で施錠していますが、職員と共に自由に出入りできるようになっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部のオンラインの研修に参加し、その研修で学んだことをフロアーミーティングの場で報告し、全職員が共有できるようにしています。また入浴介助や更衣介助の際、不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様の中にも成年後見人制度を利用されている方がおられます。家族様からの相談時にはこのような制度がある事を説明しています。また電話で問い合わせがあった場合も同様に説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧に説明し、理解・納得いただけるよう心掛けています。また料金改定が生じた場合は文章にてお知らせし、了解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個々の家族の要望や意見は電話や面会時の他、担当者会議の場でも活発に話し合われています。排便コントロールについて聞かれた例があり、薬だけに頼らず、ヨーグルトをメニューに加えたり、果物をキュウイにしたり工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者、職員はほぼ毎日朝の申し送りで顔を合わせます。その際、意見や提案を話しています。職員からコード式の掃除機は利用者の歩行時、引っかかって転倒する危険性が高いという意見があり、各階ともコードレス掃除機に変えて頂いた例があります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフト作成に当たっては、代表者が勤務状況に無理がないかを確認し調整しています。また職員の処遇改善に向けては、社労士の指導助言などを受けて、常に前向きに実施する事を明示し心がけています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に外部の研修を案内し、参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	音声入力による介護記録の導入で、温品・五日市の介護記録も見れる様になっています。他グループホームのケア記録を読む事で記録の書き方が上手くなり、利用者へのサービスの質を向上させていると思います。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前面談では、ご本人の生活の様子やADLを確認し、要望などの聞き出しに時間をかけています。入所後の数日は帰宅願望など不穏な状態が見られる事から、職員が重点的な見守りを行い、ご本人の要望や相談事を聴く機会を積極的にとり、安心感を醸成しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談で家族様にお話しを伺うと「慣れるでしょうか」と心配されます。サービス開始後は家族様との連絡を密にし、ご本人様の様子をお話しし安心して頂ける様心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談で、ご本人、ご家族、ケアマネジャーに同席して頂き、要望などを聞き出しています。サービス開始時はフロアミーティングで、今の支援が適切かどうか、他のサービス利用をどの様にするかを重点的に話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は入所者様の「新しい家族」と言う立場を認識し、その方それまでの生活の仕方を尊重し、何事も共に寄り添いながら行い、日々を過ごすよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ感染防止対策として当分の間面会を自粛して頂いています。家族が面会に来ないと言われる利用者様には、電話で話して頂き、可能であれば施設の中と外で会話して頂く様にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年はコロナ感染防止の為、ご家族や知り合いの方の面会を自粛して頂きました。希望される家族様にはメールアドレスを聞き、普段の様子を写真に撮って送っています。また今後はパソコンを使ったリモートで会話が出来る様計画しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入所時から性別、趣味や生活スタイルなどお話しが合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。又ユニットを越えてレクを行い、合同での相互関係を構築する様にしています。人間関係に考慮して部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、年賀状や暑中見舞いを出し、関係性を大切にしています。お電話でお話しする事もあり、ご家族様のその後の様子を伺ったり、心配ごとがあれば何でも相談できる信頼関係を構築しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から把握した利用者の願いや思いは、その場で音声入力による介護記録に記録し、職員間で共有しています。その思いをケアプランに入れご家族様に提示し、本人様の意向を大切にしよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所者ご本人の、現在・過去の思いや暮らし方等をお聞きし、これまでの生活環境を重要視し、なるべく変わらない方向で支援しています。ご家族様から情報を得て、アセスメントを行い、カンファレンスで検討を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面談では、これまでの住まいを訪問し、日常のADLを確認するとともに、これまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。各フロアとも食事の後片付けは利用者様が積極的に行っておられ、有する力の維持に努めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーは担当職員からの情報をもとにアセスメントを行い、担当者会議にて本人・家族・職員と話し合い介護計画を作成しています。モニタリングはシーレポに入力されたものを参考にし、状況変化に応じた個別的なプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を音声入力に変更したことで、本人様が話した内容や思いをより忠実に知る事が出来る様になりました。またその日のバイタルや医師からの注意事項等を確認する事が出来、職員のみでなくケアマネジャー・看護師にも情報が共有出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望を担当者会議で把握し、どの様なサービスが提供出来るかミーティングで話し合っています。その時のニーズに応じて多様な支援の方法をケアマネジャーが提供し対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の行事に参加したり、散歩等で地域の方と顔見知りになり声を掛けて頂いています。グループホームにも野菜を届けて下さったりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な内科・歯科の訪問診療に加え、昨年からは精神科の往診が始まりました。かかりつけ医・訪問看護は定期的な往診と訪問で24時間オンコール体制を取っており、通院を要する場合や入退院時の支援にも対応しています。他科受診の際は、その内容について音声入力された記録で迅速な情報提供が行えています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護は週1回の定期訪問ですが、それ以外にも常に連絡が取れる体制になっており、休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常ではかかりつけ医との連絡を担い、十分に相談しながら日常の健康医療を支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、常に状態を把握する為、担当医師や患者支援センター職員との話し合いの場を設け、できるだけ早期に退院・再入院できるように努めています。また医療行為が必要になった場合は、他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応の指針は、入居時とその都度伝えて、合意のうえ本人家族の意向に沿った対応をしています。看取り時は医療関係者と連携を取りながら、寄り添うケアをチームで行い支援しています。看取りの研修と職員間での振り返りを行い、終末期における支援体制を強化しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時には、運営マニュアルに沿って、連絡網で即時情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度当日の行動など関係者で振り返り、改善策についての意見交換と研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練を行い、新人職員も含め、避難経路、誘導方法の確認、防火扉や消火器の取り扱いなどを重点的に訓練しています。また災害に備えての備蓄購入をして頂き、会社全体での協力体制を築いています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のフロアーミーティングで声掛けについての対応を話し合っています。利用者が誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを意識し、職員同士が注意し合える信頼関係を作るようにしています。また口腔ケア時の目の高さや利用者の自己決定などに配慮しながらケアに取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の要望や思いなど、素直に耳を傾け、自己決定できるよう対応しています。日々の密接な関係が続く中、つい見逃してしまう兆候がある事を常に意識し、業務優先を避け、寄り添う事に時間をかけるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入所者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望を聞き、最適な過ごし方が出来るよう配慮しています。当日入浴を希望されない方は翌日にしたり、食欲が無い場合や一斉での食事を希望されない時は、後で召し上がって頂ける様工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝ご本人の好みの洋服に着替えて頂きます。化粧品もご本人、家族の希望があればつけて頂いています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来て頂き、本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望された際はご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	専門調理員が、利用者の方の要望を反映した献立を作成し食事を提供しています。時には皆で餃子包みをしたり、目の前で職員が釣って来た鯛の刺身作りが行われたりしています。食事の姿勢や嚥下、食事形態にも配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事・水分等の摂取量は個別に記録し、常に推移を見ながら工夫と配慮をしています。また入所者の様子（好み・硬さ・味等）特記があれば専門の調理員に相談し、今後の食事作りに役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを全員行っています。自分でされた後は、歯間ブラシ・デンタルフロスを使用し職員が口腔内を確認しています。歯科衛生士指導のもと、職員は必ず丸椅子に座り、ご利用者と視線を同じ高さにして口腔ケアを実施しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のタイミングを把握し、トイレ誘導をしています。職員は排泄ケア研修を受講し、一人一人にあったパットを検討し、アセスメントをしています。また下肢筋力低下防止の体操を取り入れ、自立に向けた支援に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	処方された便秘薬だけに頼らず、寒天ゼリーやヨーグルトを増やし、自然排便が進む様にしています。その方にあった適度な運動や散歩を毎日の日課にし取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回（夏場は3回）の入浴を午前中に行っています。入浴を拒否される利用者には強制せず時間を置いて入浴を促す様にしています。利用者ごとに湯舟のお湯を入れ替えて、入浴剤も好みのものを選んで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	天気の良い日には寝具類の天日 干しや風通しなどを行い、清潔 な安眠環境作りを心がけていま す。日中のレクや軽い運動・日 向ぼっこをする事で、夜間しっ かり眠って頂けるようにしてい ます。処方による睡眠導入剤の 服用なども状況によって対応し ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	c-repo(介護記録アプリ)に個 人の服薬が入っており、通常薬 ・臨時薬・点眼薬をいつでもど こでも見る事が出来、薬の副作 用や注意点なども入力されてい ます。決められた時間・量・状 態等を確認し、服薬支援をして います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	ひとり一人の好みや得意分野 など、日々の関わりの中から引 き出し、取り組みが可能なもの は検討し導入しています。家族 会のアンケートも参考にしてい ます。固定的な役割分担などは 決めず、その日の気分・体調に 合わせて無理のないよう家事の 手伝い等をして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	散歩や近所のスーパーに買物 に出かけたり、ベランダで花の 植え替えをしたり、毎日の生活 が単調にならない様にしていま す。また行きつけの美容院を予 約し、日程を決める事もご家 族様了解の上で本人様にしてい ています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入所時に金銭管理の説明をご家 族を交えて行っています。金銭 管理規定に沿って金庫での預り 金と支出記録を行い、毎月の請 求時には報告をしています。自 分でお金を持ちたい希望の方 には、ご家族同意の上所持して もらい、お小遣い帳をつけるな どして管理して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては、入所時にご家族と話し合い、必要であれば携帯電話を所持して頂いています。手紙の受発信は原則自由です。郵便局にはがきを買に行ったり投函したりは職員と共に好きな時間に行って頂いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには職員と利用者が作った壁画が飾っており、暖かな雰囲気を出しています。照明も日中は昼光色で体内リズムを整えるようにし、夕方からは暖色系の灯に切り替え、睡眠をサポートするようにしています。またトイレの場所も分かり易く表示しており、清潔にも留意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各階のリビングにはソファ2台を置き、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた思い思いの家具や椅子、家族写真、手編みのひざ掛け、好みの人形などを置いて頂いています。天井照明は(可能な方)好みの長さの紐を吊り下げ、利用者自身が消灯する事が出来、その人らしく暮らせるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは下肢筋力低下防止に役立つよう、段差を残していません。		

V アウトカム項目(4階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなでしこ富士見町

作成日 令和3年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナ枠で面会が困難になり利用者に会いたいと言う家族の要望に対する対応。	毎日をどの様に暮らしているかを知り安心して頂く。	・面会制限の緩和を現在実施中。テレビ電話が出来る様なシステム作りを検討中。	1年
2	13	消防署員立会いでの避難訓練が出来ていない。	災害時に昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につける。	・半年に一度の避難訓練を行うと共に運営推進会議への出席を促して行く。(消防職員)	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。